

令和元年度 日本大学櫻丘高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」の精神を基に、「自ら学び」「自ら考え」「自ら道を開く」能力を持つ生徒の育成を目標としています。そのためには「生徒ファースト」の視点に立ち、個々の教員が一人ひとりの生徒と向き合い、双方向のコミュニケーションによって、学業や課外活動に生き生きと取り組み、知識ばかりではない生徒の全人格的な陶冶を目指して、全教職員が協力して生徒指導に当たるような教育を施してゆきます。本校は創設 70 年の歴史のある学校ですが、先人たちが培ってきた良き伝統の上に、現代社会におけるニーズに応えるような新しい教育を取り込んでいく「不易流行」の精神を持って、魅力のある、選ばれる学校を目指していきます。

【本校の特長及び課題】

本校では、総合進学（G）クラス、特別進学（S）クラスの 2 コースを設定し、日本大学を中心に個々の生徒の志望に対応した教育の充実と進学指導体制の確立を目指しています。きめ細やかなホームルーム指導や生活指導で、生徒の自主性を育み、社会性も育成していることが特長です。

また、文部科学省で推進している高等学校教育改革、高大接続改革において現代の社会の変化に対して身につけるべき学力の 3 要素、すなわち「基礎的な知識・技能」これらを活用するための「思考力・判断力・表現力」そして「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うために「櫻イノベーション」として、より一層充実した教育活動を展開しています。

「櫻イノベーション」とはグローバリゼーションが完成された現代社会において自己実現を図るための、セルフイノベーション（生徒自身、教職員自身の内なる変革）とスクールイノベーション（ハード・ソフト両面からの教育環境の変革）を意味します。その具体的な施策が次の 4 つとなります。

① グローバル教育（英語 4 技能とコミュニケーション能力を高め英語運用力を磨く）

- ・クラスを 3 分割しての、ネイティブによる少人数制の英会話授業
- ・英検、GTEC、TOEIC 等英語検定試験の校内での実施
- ・英国語学研修、3 か月の中期ニュージーランド留学、1 年間の単位認定ニュージーランド留学制度
- ・「SAKURAcave」 ネイティブ講師との放課後英会話コミュニケーション
- ・「Online Speaking Training」 ネットを通じた英会話コミュニケーション

② 体験型高大連携教育（日本大学 16 学部と連携し、広い視野に立った進路観を育成する）

- ・日本大学各学部訪問
- ・日本大学各学部担当者による学部説明会
- ・法学部、経済学部、文理学部の高大連携授業
- ・文理学部の併設校である点を生かして、学部見学会、学生による放課後チューター制、各施設の利用

③ アクティブラーニング×ICT教育（双方向の授業を展開して主体性、協働性を育む）

- ・全教室に電子黒板の設置、校内LAN設備の整備
- ・1・2 年生全員にタブレット端末（iPad）の貸与
- ・ICT（情報通信技術）を活用したアクティブラーニングの視点からの授業改革

④ クリティカルシンキング（生徒自身に深く考えさせ、論理的思考や課題解決力、表現力を育む）

- ・週 1 回、ICT 機器を用いて生徒の主体的思考、論理的思考を育むクリティカルシンキング授業

今後はこれらの各施策や定期試験、模擬試験、各学校行事やクラブ活動などについて、そのふり返りを通じて次のステップへと進化させる、PDCA サイクルを構築させることが期待されます。これまでは紙媒体を用いて、個々の生徒に学期ごとに振り返りを記入させ、「Classi」のアンケート機能を用いて記録させてきましたが、今

年度からは「Classi」の「eポートフォリオ」機能を導入し、各行事、各学期、各年度の振り返りを計画しています。今後は、それらの振り返りを通じて生徒の能力の伸長を図っていくことと、調査書の改革に即して「eポートフォリオ」をいかに利用していくかが課題となります。

令和元年度 of 取組結果

〔概況〕

平成30年度の取組結果を踏まえ「生徒による授業評価アンケート」「教員自己評価チェック」「学校自己点検・評価」等の継続実施により、生徒をはじめ教職員の意識向上と校務分掌の円滑な運営を目指して取り組んでいます。

昨年度に、電子黒板等ICT教育環境が整備され、また今年度1・2年生全員にiPad（タブレット端末）を導入し、授業等での有効な活用や「Classi」のアンケート機能を利用して教育効果の検証や生徒会活動にも運用、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいます。年3回の教員相互授業参観週間や11月の授業公開、文理学部学生による授業参観などを実施し、各教科の研究授業においても授業内容や教育技術の向上を図りました。また、今年度より始めたニュージーランドへの1年間の長期留学（単位認定）には2名、ニュージーランド3か月の中期（ターム）留学には14名が参加し、全生徒につきましてはクラス3分割の英会話授業や「SAKURAcave」によるネイティブとのコミュニケーションなどを通して、英会話能力のスキルアップを果たしました。

これらの教育施策に対して多くの中学生やその保護者に興味を持っていただき、入試学校説明会には最大人数で2,000名を超える来場者を数え、令和2年度入試においては1,200名を超える志願者を得ることができました。「選ばれる学校」という目標をある程度達成したと考えられます。

「ICT×アクティブラーニング」については、発展途上の分野であり、今後も研修を積んで、より一層の活用を果たしていくよう努めてまいります。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業作りの実現に向け、教科ごとに年間の目標や取り組みを明確にし、4月よりシラバスやホームページに掲載し公開した。さらに、11月の授業公開でもそのような視点で保護者や受験生から授業を見てもらった。また、「知識・技能」のみならず「思考力・判断力・表現力」を観点別評価で示し、併せて評価の一部とした。高大接続改革では、生徒が自ら課題を発見し、自発的に取り組む姿勢を育成するために、学習活動、学校行事等の振り返りをさせるポートフォリオの運用を開始した。	A
教員相互授業参観の実施	教員相互授業参観週間を学期に1回（年3回）実施した。「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業やICTの活用、アクティブラーニング型授業といった観点から授業を参観しチェックシートの項目に基づき、振り返りをした。毎回、専任、非常勤講師、教科に関係なく半数以上の参観があり、授業改善に対する意識の向上が見られた。	A
アクティブラーニング型授業とICT教育の充実	全教室での電子黒板の完備、生徒のiPad所持といったICT環境が整備され、目的に応じた活用・工夫が見られた。クリティカルシンキング等の授業における発表、課題の配信や回収、一斉講義での資料提示、調べ学習等多くの活用が見られた。また、ICT授業活用事例集を作成し、授業におけるICTの活用を全教員で共有した。ICTを使うことが目的ではなく、場面に応じて活用し、基礎学力の向上や思考力の育成の一助とした。	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止及び早期発見を目的とした学校生活アンケートを、今年度は1学期及び2学期に実施した。学校生活全般に関する質問及び悩みやいじめに関する質問更には自由記述欄を通じて、個々の状況を把握し、内容については担任による面談指導を実施し、対応に当たった。 日本大学「いじめ防止リーフレット」(教職員用・家庭用)を配布し、「いじめ」の概念を周知し、小さな変化やシグナルを見逃さないことを重視した。面談指導の充実や授業担当者との連携、保護者との連携を通じて、いじめの未然防止に努めた。 	B
震災対応の具体的な安全策の立案・実施	<ul style="list-style-type: none"> 年度の初めに非常変災発生時の情報発信について、全生徒に配布物を使って周知した。ホームページを通じた情報発信に加えて「さくら連絡網」を通じた迅速な情報共有手段を確立している。 4月27日(土)及び9月2日(月)に避難訓練を実施した。気象庁による訓練用の放送を活用し、対応行動訓練及びグラウンドへの避難を実施した。 「帰宅方面別リスト」を作成し、最寄りの各駅(桜上水・下高井戸・経堂)への担当者を配置し、安全な誘導と速やかな対応を計画している。 登下校時の緊急避難校ネットワーク及びニッポン放送による安否確認情報の周知、東京都教育委員会の「東京防災」冊子による震災時の行動シミュレーションの呼びかけを実施した。 	B
社会生活上のマナー意識を向上させる。 (学校生活においても同様の基本的事項)	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識を高め、基本的な生活習慣を確立し、登下校時等においては社会生活上のマナーや一般常識を身につけることに重点を置き、最寄り駅からの登校指導、挨拶や身だしなみの指導を毎日実施している。 成城警察署による講話(薬物乱用防止・青少年の犯罪等)及び専門家によるネットリテラシー講座を実施した。 自転車事故防止(交通安全ルール)に関するリーフレットを配布し、安全教育の充実を図った。 	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校行事である文化祭・体育大会実施に伴う開催時期の検討	<p>体育大会を11月に変更し、2年目となった。さらによりよいものにできるように準備を含めて、委員と教員が連携して充実する体育大会を目指したい。また、11月実施に伴う準備においては修学旅行や基礎学力到達度テスト定期考査などの学校行事が多く重なっており、その対応のためにも周囲との連携を密に図り実施したい。</p>	B
芸術鑑賞会の見直し	<p>今年度で3年間、以前よりも予算を確保し帝国劇場やシルクドソレイユ、伝統芸能(落語・漫才・太神楽)を鑑賞している。生徒たちは非日常的な空間を過ごし、満足度も高かった。次年度以降もよりよい作品の鑑賞を進めていきたい。</p>	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 1年生を対象に学部訪問を実施し、日本大学の9つの学部・1つの専門学校に 	A

	<p>訪問した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に、法学部長による講演と入試担当より入試制度についての講話をいただいた。各セクションで100名ほどの参加者があった。 ・7月に日本大学各学部の入試担当者に来校していただき、学部説明会を実施。述べ134名の参加があった。 ・各学部のパンフレットや学園祭などの情報を進路相談室付近に常設・掲示させ、生徒が必要に応じて情報を手に入れられる環境を整備した。 	
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で進路説明会を実施し、入試の流れや卒業生によるパネルディスカッション、業者からの講演など各学年の状況に応じた説明会を実施した。 ・進路関係の研修会の案内を「Classi」で配信し、全教職員に周知させ参加を促した。 ・全国模試で現状の学力や学習状況を理解させ、生徒が学習に対して課題意識をもつように定期的な実施を行った。 	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
保健衛生（健康管理）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の準備を十分に行い、スムーズな運営をすることができた。全員の受診が完了した。それをもとに学校医による健康相談を実施し、健康管理に努めた。 ・学校感染症などの情報を教職員・生徒に周知徹底し、予防が図られた。教職員のインフルエンザ予防、ワクチン接種予防効果を高めた。 ・生徒がインフルエンザに罹患した場合の提出書類をインフルエンザ登校許可証からインフルエンザ罹患証明書に変更をした。それにより、治癒後の医療機関からの治癒証明が原則として必要なくなり、生徒・保護者の負担が軽減した。また、規定の出席停止の日数と症状の経過について学校と家庭で相互に連絡をし、罹患生徒の登校復帰手続きをとった。 ・保健室看護師が2名体制となり、生徒に対してのより迅速で専門的かつ適切な処置が可能となっている。また、随時学年、クラス担任と情報共有や連携を取りながら、保健衛生の視点から生徒の安全と教育現場の充実を図っている。 	A
生徒相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年全員が生徒相談資料調査を実施した。その結果について、各担任が西日本心理テストセンターから派遣された臨床心理士による解説と分析結果の説明を受け、学級経営・生徒指導に役立たせた。 ・インターカー資格取得を奨励し、教職員4名が取得した。 ・生徒相談室の環境整備をした。 ・今年度より特別支援ミーティングを立ち上げ、スクールカウンセラーも交えて支援の必要と思われる生徒への情報交換を通して、適切な生徒対応を話し合った。 	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室の活性化	<p>丸善と業務提携し、蔵書の整理と企画・展示の工夫を進めた。その結果、平成29年度一年間の図書室利用者数が1,475名だったのに対し、令和元年度は12月現在の段階で2,525名と増加した。3学期間利用者数を含めるとほぼ倍増すること</p>	A

	<p>が予想される。</p> <p>今年度より夏期休業期間も開室し、受験生等が積極的に利用する様子も見られるようになった。</p>	
電子書籍貸出の検討	丸善の担当部門と相談した。電子図書館のシステムが次第に浸透しつつも、まだ日本では成熟しておらず、メリットはありながら課題・改善点が多々あるのが現状であることが分かった。何年後かの導入を視野に入れながら今後も継続して利用計画を考えていく。	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
引き続き広報活動の媒体を紙ベースからウェブ利用を推進する。	今年度は、本校ホームページを一新し、他校との差別化を図った。新着情報の更新も週数回行い、閲覧者の増加につながった。また、今年度から本格的に導入した「inter-edu.」での広報活動において、年6回の特集記事や学校訪問記、また定期的な「edulog」の更新を実施した。これらの取組は、本校が掲げる「櫻イノベーション」をキーワードに、Web媒体での広報に大きく貢献したと考える。	A
外部での広報活動について、本校の特長を受験生に正確に届ける。	今年度はホームページに加え、学校案内・ポスターも一新した。学校案内・ポスターはあえて情報を制限することで、他校との差別化を図り、外部での説明会において本校にまだ関心を抱いていない受験生にもブースに来てもらえるような工夫をこらした。また、併願優遇における制約の撤廃や入試日程の追加など、入試における大きな変更点があったため、募集要項では変更点を強調するなど、正確な情報を伝えられるような取組を行った。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動の充実と負担の軽減	<p>運動部 19 部と文化部 9 部、計 28 のクラブを設置している。運動部には 2 名～3 名、文化部は 1 名～3 名の専任教員による顧問を配し、また多くのクラブに通年あるいは合宿時のコーチを任用し、専任教員の負担軽減を図っている。</p> <p>今年度の取組として、日本大学の競技部と連携して、野球部、サッカー部において部活動指導員学生の派遣を依頼し、定期的に技術指導をいただいている。</p> <p>また、専任教員には、休日の公式戦や練習試合、学校での活動など、部活動で生徒指導に当たった場合には、振替休日を取れるようにしている。この休日は、研究日に授業を入れずにいつでも取れるよう工夫している。</p>	A
教職員の健康管理	<p>毎年 7 月～8 月に主として駿河台の日本大学病院で専任の教職員全員を対象として、4 月に文理学部に医師を派遣して行う健康診断に非常勤講師全員を対象として実施している。</p> <p>この他、10 月にはストレスチェックを実施し、ストレスレベルが高い教職員には産業医による面談を実施し、教職員の精神面での健康維持に配慮している。</p> <p>また、年次有給休暇については年間 5 日以上取得することを義務付け、研究日の授業がない日などに積極的に休めるように配慮している。</p>	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和2年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	主体性・協働性，学びに向かう力，思考力・判断力・表現力育成の指針となるルーブリック評価の作成を進める。自主創造や櫻イノベーションといった学校教育目標からベースとなるものを作成，授業や学校行事をとおして見えない学力を可視化する。	4月にルーブリックに関する全教職員の研修会を実施。その後，6月を目途に作業会を数回実施。7月にベーシックルーブリックの完成後，サンプリングを行い，年内を目途に完成する。
家庭学習時間の増加	自学自習の習慣化と家庭学習時間の増加で，基礎学力の向上を図る。平日は60分，休日は120分以上を目標とする。到達度テストによる課題発見，弱点補強を行いスタディサプリによる課題配信をはじめとした学力向上プランを策定する。	4月の到達度テストの結果をもとに，3教科の分析会を実施。課題配信のスケジュールリングと教科間の調整を行い，5月より実施する。9月も同様とする。学期ごとに家庭学習時間の振り返りを行う。
新カリキュラムの作成	現行のカリキュラムの問題点のあぶり出しと反省を行い，本校の学校教育目標を具現化できるカリキュラムの作成を行う。SクラスとGクラスとのバランスや思考力や探究力を育成できる内容とし，3年次に選択科目の幅を持たせる。	前年度内にSクラスの在り方や方針が確定。その後，各教科における3か年の計画をもとに作成を行う。令和2年度に案を提示し，年度内の完成を目指す。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	日本大学「いじめ防止リーフレット」(教職員用・家庭用)を活用し，「いじめ」とは何か?根本的な考え方を生徒及び保護者に改めて説明し，その上で人権に係る問題を起こさない環境作りや啓蒙活動に力を入れる。また，生徒の内面の成長や道徳心の高揚，他人を傷つけるような行動・言動は絶対にあってはならないことであると強く訴えていく。	保護者には新年度の保護者会を通じて周知し，生徒には学年集会や週末のロングホームルームの中で時間を取って理解を深めさせる。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
次年度の芸術鑑賞内容策定	生徒会指導部で積極的に公演などの見学を行い生徒のニーズに合ったものを実施	1学期中に内容を決定

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の学部訪問を前年度に引き続き実施し，大学についての理解を深める場をつくる。 日本大学学部別個別相談会を今年度に引き続き7月 	学部訪問日 10月3日を予定 相談会

	<p>に実施。入試改革に伴う試験変更などの情報を直接入試担当者から聞く場を設け、進学に向けての不安を解消する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で進路説明会を実施し、日本大学への進学方法や入試制度についての知識を深め、日本大学への興味・関心を高める機会を設ける。 	<p>7月14・15日を予定 進路説明会</p> <p>1年生：6月27日 2年生：11月21日 3年生：5月2日・9月5日</p>
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内で出張講義を開講し、生徒の学問系統についての理解を広げる。 「GAKUTAN」などの文理選択の振り返りを強化し、体系的な進学指導を行うようにする 	1学期に実施できるよう検討 ロングホームルームの時間について教務と連携し、実施時期を検討

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
健康診断の実施	健康診断の実施に向けての準備	<p>2月 業者打ち合わせ開始</p> <p>4月 始業式 健康調査票などの回収と確認</p> <p>4月21日(火)健康診断日</p>
感染症予防	熱中症予防・感染症予防の周知徹底をしていく。	<p>6月 熱中症予防の注意喚起</p> <p>10月 感染症予防の注意喚起と手続きの確認</p>
生徒相談 特別支援体制の強化	<p>特別支援に関する研修会参加の機会を増やす。各部署との連携を図り、生徒の情報共有と個別対応を周知徹底する。</p> <p>1年生対象生徒相談資料調査を行い、問題行動を早期に見出し、深刻化しない段階で解決を図る。</p>	<p>各学年よりヒアリングとミーティングを通じて、支援や配慮の必要な生徒についての情報を得る。</p> <p>ミーティング開催予定時期 5月・7月・10月・12月・3月</p> <p>生徒相談資料調査 6月</p> <p>臨床心理士によるデータ分析と解説 7月</p>

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書室運営への生徒による積極的な参加	今年度は丸善への業務委託に伴い、司書と図書委員の仕事との役割分担が不明瞭になってしまい、生徒たちはほぼ貸出業務にしか携われなかった。よって次年度は選書や企画展示、広報などの仕事に積極的に生徒が関われる環境をつくる。	最初の図書委員会で丸善担当者と図書委員とで協力できる業務や仕事の分担について話し合う。役割の部門ごとに委員の中に係をつくり、定常的に活動する環境をつくる。
読書・学習環境の整	引き続き、生徒目線の選書をすすめていく。特に自習	各教科の教員から、常備するべ

備	環境をより充実させるため、参考書等の書籍の充実も図る。図書室開室時間の延長についても検討していく。	き参考書・問題集等の情報を収集する。利用生徒からの希望もととり、蔵書情報を公開する。
---	---	--

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
ホームページをさらに活用し、本校の特色を伝える。	「Google アナリティクス」を活用した、ホームページ閲覧状況の分析を行う。その上で、ホームページ滞在時間の伸長や直帰率・離脱率の減少を目指すため、定期的な更新を行う。	令和元年度中に、ホームページにおける各ページの閲覧状況を分析 最低でも週2回の新着情報の更新
塾訪問を強化し、塾の先生方への本校PRを行う。	担当者が年間約600校の塾を訪問する。訪問の際には、広報部との情報共有を徹底し、的確なPRを行えるよう、事前の準備を細やかに進行。	年度初めに、訪問する塾や時期を担当者と打合せ 重点校は、4月・5月中に訪問

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
ループリックの作成	新しい学力観に見合う様々な教育施策を、ループリック作成により客観的に評価し、カリキュラムマネジメントに反映させるとともに、本校の教育成果を内外に発信できるようにする。	ループリック作成に関わる委員を教科やキャリアに偏らずに選び、4月から9月まで10回ほどのミーティングにより作成していく。完成したループリックを用いて全教職員により教育成果を評価する。
特進小委員会の設置	特別進学（S）クラスの指導について、具体的な方策を検討する機関として、進路指導部とは別に特進小委員会を設ける。新たに特進主任を置いて委員長とし、1年生～3年生特進クラスの担任、教務主任、進路指導部主任などを構成メンバーとする。模擬試験結果の分析、学力向上のための講習、合宿講習の計画、特進独自の行事の検討などを行う。	4月に行われるスタディサプリ到達度テストや進研模試などの模擬試験を核として、生徒がPDCAサイクルによって学力の向上を図れるよう、定期的に委員会を実施し、特進運営委員会に報告する。

中長期的目標の取組結果

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
健康診断	健康診断の実施内容変更に伴う準備と運営は、スムーズであった。また全校生徒の健康診断を行うことができた。健康調査票及び希望者への色覚検査により、「色覚異常」のある生徒の把握をした。	A
熱中症予防及び感染症予防	熱中症予防・感染症対策を周知徹底した結果、予防に役立っている。「Classi」やポスターを通じて、全校生徒へ熱中症予防・感染症予防の呼びかけを実施した。外部委託業者からの派遣医師による教職員及び非常勤教職員対象のインフルエンザ予防、ワクチン接種を本校でも実施し、感染症予防に努めている。	A
生徒相談	相談室利用についての生徒・保護者への呼びかけは、ポスター、「学年便り」、「櫻	A

	<p>丘広報」などを通じて随時実施した。生徒相談室に関して教員による開室の徹底は十分に図られなかった。</p> <p>生徒相談資料調査の実施とデータ分析と解説会を行い、生徒理解に役立たせた。インターカー取得への啓もうは推進できている。</p>	
--	---	--

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新カリキュラムの作成	各教科で新カリキュラムにおいて設定される必修科目や新設された科目の単位数等を検討し、カリキュラム検討委員会で調整・検討する。併せて各教科の観点別評価について検討する。	2020年12月までに2022年度から学年進行で実施されるカリキュラムを作成し、1月～3月に本部内申、2021年度6月教科書選定、11月副教材選定とする。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
アドバンスコースの検討	現行の特別進学（S）クラスを改革し、日大櫻丘高校独自のアドバンスコースを検討する。	2022年度から学年進行で実施される新カリキュラムに合わせて設置する。2020年度はアドバンスコースのカリキュラム作成、アドバンスコース生徒の選抜方法、コースの目標、独自性などについて順次検討していく。